

今シーズン(2011/12)のインフルエンザワクチン	1ページ
新任医師紹介／医療福祉相談室だより「今月のイチオシ図書」／「糖尿病教室10月」のお知らせ	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「災害時の糖尿病」	3ページ
アレルギー教室のクッキング／外来ニューフェイス紹介／植物を探せ!vol.22／外来診察のご案内	4ページ

今シーズンのインフルエンザワクチン

2011/12



インフルエンザワクチンを接種する時期になりました。毎年この時期になりますと、「今シーズンもインフルエンザがはやるの？はやる型は？」、「インフルエンザワクチンは効くの？」、「卵アレルギーの人にもインフルエンザワクチンは接種できるの？」など、外来でインフルエンザが話題になります。今年のインフルエンザ、インフルエンザワクチンの話題を一足先にお知らせします。

9月にはいり、米国でブタからヒトにブタインフルエンザウイルスが感染したと、新聞報道がありました。一人は直接ブタから、もう一人はブタと接触があったおとなの人から感染したと考えられています。さあ、「今年もブタから新型インフルエンザウイルスがヒトに感染する？」と、あわてないでください。米国では毎年ブタから何人かのヒトにブタインフルエンザウイルスが感染しています。多くの専門家は、今シーズンは2009年のように新型インフルエンザウイルスは出現しないだろうと考えています。落ち着いて米国からの情報を待ちましょう。

それでは、はやる型は？昨シーズンは、先ずA/H3N2（いわゆる香港型）が流行し、その後A/H1N1（いわゆる新型インフルエンザ）に代わり、4月に入ってB型が流行しました。今シーズンの流行は、A/H3N2が中心と予測されていますが、わかりません。なお、タミフル®やリレンザ®などの抗インフルエンザ剤は、A/H1N1には良く効きますが、B型に対しては効果が劣ります。昨シーズンB型がはやったとき、タミフルを飲んでいるけど熱が下がらない、リレンザを吸っているけど熱が下がらないから診察してほしいという依頼が時間外にありました。はやる型により、抗インフルエンザ剤の効果が異なることを理解してください。

今年のインフルエンザワクチンには、昨年と同様にA/H1N1はいわゆる新型インフルエンザウイルス由来の株を、A/H3N2は現在世界各地ではやっている株を、B型は昨年日本ではやった株の系統を用いています。そうすると、「全く同じなら今年接種しなくてもいいのでは？」という考えが浮かびます。この考えもちょっと待ってください。

インフルエンザワクチン接種によって高まった抗体（免疫力）は、半年で1/2に低下し、更に半年たつと1/4に低下しています。全く同じ型が2年続けてはやった時の調査では、2年目にワクチンを受けなかった人達の有効率は約30%低下していました。ワクチンの株が全く同じでも、やはり毎年インフルエンザワクチンを受けて下さい。

「卵アレルギーの人にもインフルエンザワクチンは接種できるの？」も話題です。日本のインフルエンザワクチンは外国のワクチンと比べて、不純物の含量が少ないのが長所です。卵アレルギーに関係しているオボアルブミン量は1ng/ml（1gの1億分の1g）と極めて微量で、アナフィラキシーをおこす濃度は含まれていません。2009年A/H1N1ウイルスのパンデミック時、藤澤先生や長尾先生が卵アレルギーの41人の子どもにインフルエンザワクチンを接種しましたが、全員卵由来のアレルギー反応を起こしませんでした。

最後の話題は、今年から子どものインフルエンザワクチン接種量が、WHO推奨量と同じ量の、6ヶ月～3歳未満は0.25ml、3歳以上は0.5mlに増量されました。三重県を含め各県の子どものたちの協力で、やっと、インフルエンザワクチン接種量も国際化が実現しました。増量されることで高い抵抗力が誘導